団長の独り言

「ふたりのゆめ」綾部公演成功までの軌跡。

思い起こせば約２年前、「ふたりのゆめ」の視察という事で、劇団メンバー数名と、綾部日帰りツアーを行った。
その時、劇中に登場する「中丹文化会館」も見学をしたのだが、大きな劇場と客席の立派さに感動し、「こんな素晴らしい劇場で公演が出来ればいいね」とその時は話をしていたのだが、２０２４年１月、麻布区民センターで初演を迎えた「ふたりのゆめ」を御覧になった京都府議の四方源太郎先生との出会いから、「ふたりのゆめ綾部公演」がゆっくりと動き始め、幾度となく「演劇まちづくりの会」代表の後藤さん、四方さんとのメールや電話での打ち合わせや、綾部でのワークショップ講師等を行いつつ、皆様との交流を少しずつ深めながら、着実に「公演成功」に向け、前へ前へと全ての事を進めてきた。
そして迎えた２０２５年の９月７日！
約７００名のお客様がお越しになった中、笑いと涙と大きな拍手に包まれた、「ふたりのゆめ綾部公演」は大成功で幕を下ろす事が出来た。
その様子を、今回も日記形式でお届けしたいと思います。

９月５日(金)・・・この日、台風１１号が静岡から関東に接近するらしく、大雨洪水警報まで出る始末。
無事綾部入り出来るのだろうか？
不安を抱えつつ、午前６時２０分、東京駅八重洲中央口改札に到着すると、すでにほぼすべてのメンバー達が顔を揃えていた。
待ち合わせ時刻は午前７時なので、みな台風の影響を心配して早めの行動だが、お揃いの綾部公演バージョンのＴシャツを着たメンバー達は、笑顔、笑顔、笑顔！
総勢２０名の劇団ふぁんハウスご一行は、７時３０分東京発のＮ７００Ｓという最新型車両に乗りこみ、いざ綾部へ。

新幹線の車内では、乗車するとすぐに朝食を摂る者、おしゃべりをする者と、誰も彼もなんだか楽しそうで、まるで修学旅行のような雰囲気の中、約２時間ちょい、定刻通り京都駅に到着。
ここで特急に乗り換えるのだが、乗り換えまで約３０分間あるので、京都駅新幹線乗り場構内のおみやげやさんへ。
本当は綾部名産のおみやげを綾部で買いたいところではあるのだが、綾部入りしてからは怒涛のスケジュールなので、おみやげをのんびり買う時間は取れない。
そこで集合時間を決めて、みな「京都みやげ」散策。

約２０分間ではあるがそれぞれが「京都みやげ」を袋一杯に持ち、山陰本線乗り場へと移動していると、情報収集していた小路さんが叫ぶ！「新幹線、台風の影響で掛川で止まっているそうです！」
危機一髪！１本遅い新幹線に乗っていたら予定は大幅に遅れていたのは確実。
ついているぜ！劇団ふぁんハウス！

予定通り特急「はしだて」に乗り込む。
私は、「綾部公演」が決定してからというもの、毎月のように綾部に伺ってきたけれど、全メンバー達と共に綾部に降り立つというのは、なんとも感慨深い。
ちょっぴり感傷に浸りながら、流れゆく山々の景色を眺めていると、約１時間で綾部に到着。

お揃いの黒の公演Ｔシャツを着たふぁんハウス軍団２０数名が綾部駅の改札を出ると、「演劇まちづくりの会」代表の後藤光さん、顧問の四方源太郎さんをはじめとするメンバーの皆様が、お出迎えをして下さっていて、まずは後藤さん、四方さんと笑顔で固い握手！

その握手の意味は、「色々あったけれど、ここまでたどり着きましたね！みんなで綾部に来ましたよ！」という意味と、「全力で行きましょう！」というエールの交換のような握手だ。
各メンバー達は、「初めまして！」「よろしくお願いします」等、あちらこちらでご挨拶。
他の乗降客からは、「なんだ？この軍団は？」と思われたかもしれないね。

駅ロータリーに行けば、会の皆様方がご自分の自家用車を出して下さっていて、我々劇団ふぁんハウス軍団は、数台の車に分かれて乗車し、向かうは中丹文化会館！みんなは、どんな想いで初めて見る綾部を眺めているのかなぁ？なんて事を考えながら、私は四方顧問の車にて中丹文化会館へ。

劇場に着くと、大勢の「演劇まちづくりの会」の皆様が笑顔いっぱい、玄関で待って下さっている。
どの方も私にとっては顔見知りの方々ばかり！なんだか嬉しくて、すでに涙が出そうになりながらも、とにもかくにも全員で楽屋入り。
大きな荷物をどさっと置いて、予め宅配便で送っていた荷物のチェック等を各自済ませると、お昼時という事で、まずはお弁当タイム。
後藤代表が手配して下さっていた地元の高級弁当！美味しい！

後藤さんが選びに選んで下さったお弁当だそうで、真心のこもったおもてなし弁当を食べ終え、すこしだけ休憩をした後、舞台監督の高橋さんが中心となり、舞台美術の三井さん、堀越の兄貴達は、綾部チームの大道具リーダー小嶋さんが中心となり、前日に搬入をして下さっていた大道具のチェックと、建て込みの打ち合わせを行い、いよいよ！怒涛の仕込み作業がスタートしたのでした。